

○ 十勝教育研究所の沿革

昭和24年	2月	十勝教育研究所設立準備委員会設置
昭和26年	6月	研究所設立総会開催、十勝教育研究所並びに維持委員会を発足
	7月	十勝教育会館(帯広市東6南10)が完成、その一室に研究所を置く
昭和32年	12月	「研究所だより」創刊
昭和35年	3月	十勝教育研究所運営委員会設置
昭和37年	7月	「研究所だより」を改編し、広報誌「十勝教育研究」として刊行
	8月	「十勝管内教育関係職員録」を編集刊行
昭和42年	5月	新築された十勝教職員研修センター(幕別町依田)へ移転
昭和50年	4月	十勝管内町村教育研究所との「共同研究」を組織
昭和51年	8月	十勝管内教育研究所連絡協議会設立
昭和62年	4月	「共同研究」に帯広市教育研究所が加わり管内全教育研究所の共同研究を開始
平成7年	3月	新築された十勝教育研修センター(幕別町札内曉町)へ移転
平成9年	2月	十勝教育研究所研究発表大会を継続事業として開始
平成12年	11月	全国教育研究所連盟「教育課題等研究協議会」大分大会で提言
平成13年	11月	全国教育研究所連盟「教育課題等研究協議会」北海道十勝大会開催
平成20年	4月	専任所長の配置
平成27年	9月	北海道教育委員会が教育状況調査で来所
※ 北海道教育研究所発表大会十勝大会開催		
平成8年10月、平成22年9月、令和5年8月（予定）		
※ 道東地区教育研究所所員研修会（十勝会場）開催		
平成10年9月 平成14年8月 平成18年8月 平成21年9月 平成26年8月 平成30年8月、令和4年8月		

○ 職員一覧

職名	氏名	所属	業務分担
所長	山田 洋	専任	所務の掌理 道研連、全教連、管内各教育機関・団体との連携
副所長	横山一仁	札内東中	調査・研究及び研修事業の統轄、業務推進に関する指導・助言、教育研究相談
主幹	所長兼務		庶務の整理、十勝教育研究所運営委員会の開催、各種会議（モニター会議、調査委員会等）の開催、教育関係職員録の編集
主任	松村理史	下音更小	共同研究、研修講座、教育講演会、研究発表大会、所内・業務計画会議の企画、管内所員研・道東研・道研連発表大会、webサイトの企画
副主任	柴田悠二	緑南中	協力員研究、研修講座、道研事業の連絡調整、教育研究相談、webサイトの企画・作成・運営
所員	白澤大輔	木野東小	共同研究、研修講座、広報誌「十勝教育研究」カリキュラム支援センター、学習指導資料「十勝の子どもの学力」
所員	山本由佳	札内中	共同研究、研修講座、広報誌「十勝教育研究」、学習指導資料「十勝の子どもの学力」、道研連共同研究推進委員
所員	糸山修斗	札内北小	協力員研究、研修講座、広報誌「十勝教育研究」、学習指導資料「十勝の子どもの学力」、カリキュラム支援センター、webサイトの作成
書記	清水悦子	専任	庶務、会計、参考資料の管理

十勝教育研究所

令和5(2023)年度 要覧

環境に優しい業務の推進



○ 所在地

〒089-0531 北海道中川郡幕別町札内曉町 290 番地の2
TEL 0155-56-2331 FAX 0155-56-4260
Email staff@tokyoken.net URL <http://www.tokyoken.net>



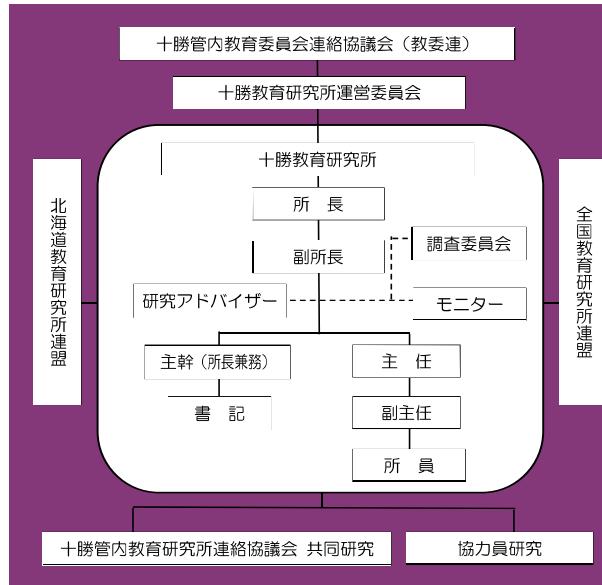
○ 運営の基本方針

十勝教育研究所が十勝管内教育委員会連絡協議会によって設置されている公的な研究機関であるという性格に立ち、各市町村教育委員会はもとより、十勝教育局並びに教育関係機関、十勝教育研修センターとの密接な連携を図り、その中心的な業務である調査研究、研修活動、資料提供等を通して、教職員の人材育成、十勝管内の教育の充実、発展に尽力することを基本方針とする。

○ 設置

- 十勝管内教育委員会連絡協議会規約（抜粋）
(教育研究所の設置・運営)
- 第14条 十勝管内の教育振興に寄与するため十勝教育研究所を設置する。
- 2 教育研究所を運営するため十勝教育研究所運営委員会をおく。
- 3 前2項の設置、運営について必要な事項は別に定める。

○ 構造図 及び 運営委員会



十勝教育研究所運営委員会	
委員長	菅野勇次 (幕別町教育長)
委員	(教育長)
委員	小堀雄二 (上士幌町教育長)
委員	(教育長)
委員	北川慎太郎 (学識経験者)
委員	程野 仁 (芽室町教育長)
委員	菅原康博 (広尾町教育長)
委員	山田 洋 (十勝教育研究所長)

※ 十勝教育研究所のマークの由来



このマークは、昭和40年に当時の土門修所員と廣田良治所員により考案されました。外線が十勝の形を表しアクセントを付けるために海岸線を太くしました。また、当時の十勝は「豆王国」と言われたことから、十勝の地域的な産業のシンボルとして、双葉のマークを入れました。双葉の大小については、見る人の判断（例えば、大は教師、小は育まれる子どもの考え方）に任せようと考えました。「O」は太陽を表し、十勝晴れをイメージできるようにしました。

○ 研究機関としての研究

△ 十勝管内教育研究所連絡協議会 共同研究

管内 19 市町村の教育研究所と十勝教育研究所が一体となって、授業実践を通して、研究を進めます。

「自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究」1/2年次～考えを広げ深める対話の工夫と、学びを自覚する振り返りの充実を通して～子どもたちは様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことが求められている。また、授業改善を進めるに当たり、主体的な学びにおいては、学習の見通しを立てそれを振り返る活動を計画的に取り入れる工夫を、対話的な学びにおいて対話の視点を明確にしたり可視化したりする工夫を取り入れ、学びを深める子どもの育成を目指す。

△ 十勝教育研究所 協力員研究

管内の小中学校各1校の協力を得て、協力員2名を委嘱し、授業実践を通して研究を進めます。

「子どもたちに自他を認め合う心を育む研究」2/2年次～道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫を通して～研究1年次の成果であるICTの活用や「考える・議論する」道徳を基にした上で、学習指導要領でも重要とされている学習の1つである道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる。体験的行為や活動を授業の中で適切に取り入れ、それらを通して道徳的価値の意義などについて考えを深めることにより、自他を認め合う心を子どもたちに育むことを目指す。

○ 関係機関との連携

△ 全国教育研究所連盟

十勝管内を代表する加盟研究所として、発表大会や研究協議会等に参加し、加盟機関相互の連携を深めるとともに、必要な情報を収集し管内の小中学校や教育機関に広く提供する。

△ 北海道教育研究所連盟（令和5年度～道研連研究発表大会十勝大会を開催予定）

十勝管内を代表して連盟委員の役割を担う研究所として、第18次共同研究に積極的に協力するとともに、相互の研究成果交流を通して、北海道教育の一層の充実・発展に資するとともに必要な情報を収集し資料を提供する。

△ 道東地区教育研究所連絡協議会

加盟機関相互の連携を密にして教育研究の充実を図り、道東4地区の教育振興に寄与するとともに必要な情報を収集し資料を提供する。

△ 十勝管内教育研究所連絡協議会

十勝管内全ての教育研究所との連携を密にし、教育研究の充実を図り、もって十勝教育振興に寄与する。

○ 教育研究相談・資料の提供

△ 教育研究相談

校内共同研究の進め方や個人研究の相談、十勝の学力分析を基にした授業改善研修、調査研究成果を用いた研修、今日的な教育情報や資料の提供に応じます。

△ 研究紀要

今日的な教育課題について、十勝教育研究所が調査・研究した成果を今後の管内教育の充実・発展に資するための資料として提供する。

△ 学習指導資料「十勝の子どもの学力」

各町村で実施している調査による子どもの学力を教科別・観点別に分析・考察し、学習指導を改善・充実するための基礎的・実践的な資料を提供します。

△ 広報誌「十勝教育研究」

学校や個人の取組、町村研究所や研究実践校の紹介、十勝教育研究所の事業、十勝管内の実態調査結果、最新の情報を広くお伝えします。

△ カリキュラム支援センター（今年度よりデジタル化の取組も進めます）

各種教育用図書や各学校・研究所の研究紀要などを授業づくりの資料や教育情報として提供します。

△ web サイト（ホームページ・Facebook 等）

データによる資料提供、情報交流の場としてのホームページのリニューアルを進めます。また、活動の様子等をSNS等で提供します。

△ 教育関係職員録 市町村教育委員会の合冊本として職員録を刊行します。

○ 講演会・研修会の開催

△ 十勝管内教育研究所所員研修会（道研連研究発表大会を兼ねる）

十勝管内における、各研究所の今日の課題と役割を明確にし、あわせて相互の研究成果の交流を通して研究所員の力量を高める。

△ とかち教育講演会

脳科学者でありテレビのコメンテーターとしても活躍されている東京大学・薬学部の池谷裕二教授に「(仮) 子どもを育てる脳科学」と題した教育講演会を実施します。

△ 十勝教育研究所研究発表大会

令和6年2月8日共同研究と協力員研究の成果をオンラインで発表します。

△ New! 研修講座「十勝教育研究所と学ぶ」

共同研究と協力員研究の成果に基づいた授業づくり講座を開催します。